

緒言 現代におけるファッションは、もはや生活の一部として考えられるほどにわれわれの生活に浸透しており、着裝に対する関心も非常に高まっている。この衣服の着裝目的には、わりきれない無数の因子があり、それらが微妙に関連しあって選ばれ、着裝されていると考えられる。この無数の因子の形態を把握するため、着裝について意識調査、解析をおこなったので報告する。尚、今回は、年齢による着裝意識の違いというものにもスポットをあて、パネルを学生とその母親の2グループに分け、その違いについても観察した。

方法 岐阜女子短期大学学生396人、その母親360人を対象にし、着裝に関する意識調査をおこない、その資料をもとに因子分析法による解析をおこなった。学生、母親それぞれについて4因子を抽出し、その因子についての解釈をおこない、同時に、学生、母親の違いについても検討した。

結果 学生については、第I因子；趣味、娯楽性、第II因子；経済性と自己満足、第III因子；社会性、第IV因子；計画性と自己表現の4因子が表われ、主婦については、第I因子；趣味、娯楽性、第II因子；社会性と計画性、第III因子；経済性、第IV因子；自己表現の4因子が表われた。これより、着裝目的の最も重要な因子は、衣服の趣味、娯楽性であり、これは学生、主婦に共通していることがわかる。また、学生においては社会性、計画性よりも経済性が重要因子であり、主婦においては経済性よりも社会性、計画性の方が重要因子であった。